

# 1977

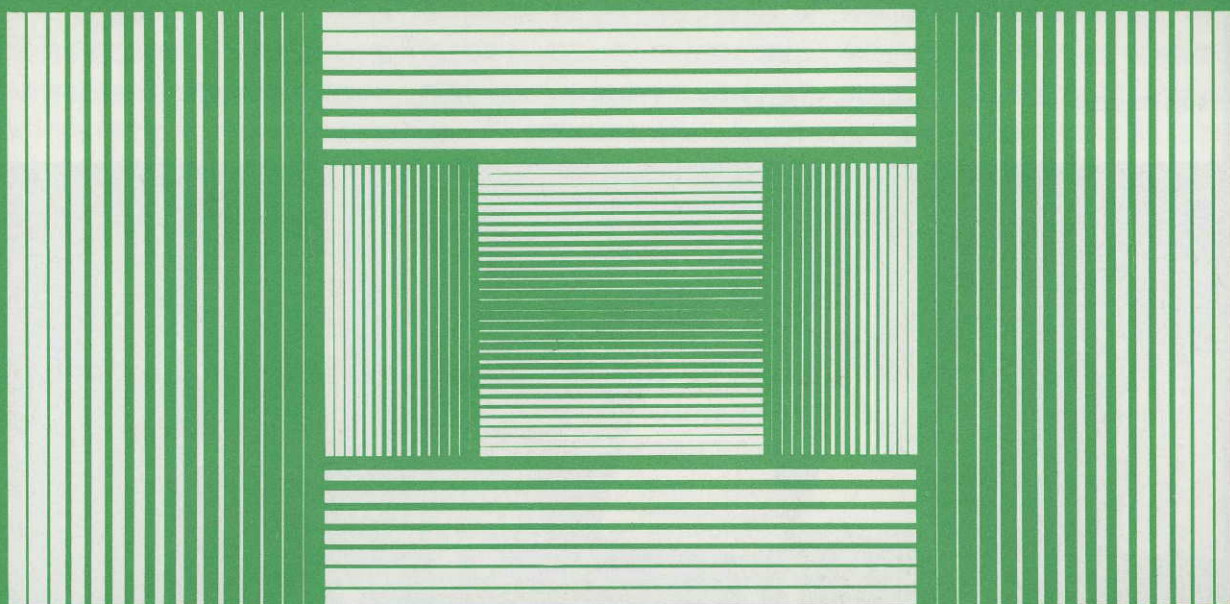
# TALENT EDUCATION

# ALL JAPAN CONCERT

violin•piano•cello•flute•koto by 3000 children

## 3000人の児童によるコンサート

バイオリン・ピアノ・セロ・フルート・箏



とき—昭和52年3月20日(日) P.M.2:00

ところ—日本武道館大ホール(東京・九段)

入場料—指定席(チャリティ) ¥1000

本券の売上利益金は社会福祉法人脳研療育会へ寄付させていただきます

MARCH 20(SUN) 1977 P.M.2:00

NIPPON BUDO-KAN TOKYO

ADMISSION—RESERVED SEAT(CHARITY) ¥1000

## 第2回スズキ・メソード国際研究大会

# ハワイ大会に参加しましょう

- アメリカ、カナダ、英国、オーストラリアの各国で指導の先生方その父兄と生徒さんが多数出席されます。
- 鈴木先生を中心に、この方達と一緒に国際的な理解と友情を深めながら、毎日楽しい勉強ができます。
- 才能教育会員のための特別に安い料金です。

全国支部教室の御父兄生徒さん、是非御参加ください。

- 期日——52年6月26日(日) 羽田発  
52年7月5日(火) 羽田着

- 費用——Aコース ￥225,000  
Bコース ￥190,000 (両コース共、航空運賃、宿泊費、食事付です。但し、オプション・ツアー2日間の食事は除く)

ご希望の方は、受持の先生、又は本部事務局にお問い合わせ下さい。

- 第1回大会風景——「夢のように快適な気候の中で鈴木先生のレッスンを毎日うけ、子供には素晴らしい思い出になりました。外国の方と一緒にしたので子供なりに勉強になったようです。」——参加者の母親より。



- 大会委員長——本多正明
- 大会副委員長——田中金重
- 実行委員長——松井宏中
- 実行副委員長——大熊庸生
- 実行副委員長——山本真嗣
- 東京事務所——水野明夫

- 実行委員——関東地区 指導者全員
- 東海地区代表 近藤富雄
- 中信越地区代表 片岡世界
- 東北地区代表 中塚 久
- 関西地区代表 新井 寛

- ピアノ伴奏——秋葉三佐子
- 賛助出演(箏)——正派邦楽会  
総裁・中島雅楽之都

- 本部——〒390 長野県松本市深志3-10-3 TEL.——松本0263(32)7171
- 東京事務所——〒101 東京都千代田区神田駿河台1-6 主婦の友ビル7階 TEL.——東京03(295)0270・東京03(294)2251 内線299
- 東海事務所——〒464 名古屋市中区春町通4-15 大沢美良方 TEL.——名古屋052(751)3436

## 世界の世明けを

才能教育研究会会長 鈴木鎮一



ようこそおいで下さいました。御光来を感謝いたします。今年も又3000名の子供達のすばらしい大合奏を、どうぞ心しておき願います。

子供達のすばらしさ、どの子も育つ、育て方ひとつ、能力は生れつきではない。今日のこの大合奏のすばらしさも、どの子も育つ当然な姿であります。5、6才で自分の国の言葉を自由自在に話す高い能力に育つ世界中の子供達です。育て方ひとつ、0才からの育て方次第です。どの子も育つのです。田国語のすばらしい能力に育つ子供達のその事実、今迄誰も気がつかなかったということは、何というかつなことでしたでしょう。

このことに40数年前ふと気がついた私は、飛び上るほどに驚いたことでした。そして0才からの田国語の育つ教育条件を観察し、能力の育つ、育て方の原則を知りました。そして、今や世界の教育法の革命が「鈴木メソード」の名の下に始まりアメリカ、カナダを中心に世界中に拡がりつつあります。音楽だけではなく、心も能力です。即ち、すべての能力は生れつきではなく、能力は「能力の法則」に従って育つものであることが明らかになりました。世界の夜明け、親達の目ざめ、教育法の革新によって、地上の総ての子供達が人として正しく好ましい美しい心、高い能力の人間に育てられる時代をめざして進めて参りましょう。

## 輝かしい教育成果の儀式

幼児開発協会理事長 井深 大



世界でもっともすばらしい音楽会が、今年もここで開かれます。此の音楽会は、人間は出来るだけ早く学び始めなければならないことを、実際に世界中の人々に実験をしてみせる最大の儀式なのです。

2才何か月の子供がバイオリンを自由に弾きこなすということ、かつて誰が想像したでしょうか。今や世界中の人達は、「鈴木メソード」の意味が分り始めました。これは単に音楽家の卵をつくり出すための方法と考えてはなりません。人間をつくるために人間は生れた時から学び始めなければならないという大きな人類の教訓を実証しているのです。

よい人間だけが良い国を創り、よい世界を産みだすのです。そのための大きなデモンストレーションが此の音楽会なのです。3000人の子供達の作り出す此の音楽会が、此の事を世界中の人達に告げているのです。昨年、鈴木先生は世界的に有名になったバイオリニスト達に囲まれて、喜寿のお祝いの音楽会を開かれました。大変すばらしい事でしたが、私はそれ以上に、世界中の教育のあり方に革命を起し、火を灯された先生の偉大さを称えます。よりよい人間をつくり出すために、鈴木先生の考えをどう実現して行くかが鈴木先生が世界に与えた大宿題です。

私達は話をきいたり、テレビでみたり、本を読んで色々学びますが、真実にふれた感動には及びません。それはより大切な体験です。此の最高の体験を、私達は此の音楽会によって与えられることを毎年積み重ねて来たことです。

人類の幸福のために此の音楽会が、一人でも多くの人に感動を与えることを祈ります。

## すべての子供の幸せのためには

大会委員長 本多正明



今日の全国大会に参加出来る子供さんとその御両親は、大変幸せであると思います。私達は昨年一月、脳障害児のための療育センターを設立致しましたが、このセンターに来られる子供さんと御両親は、誠にお気の毒だと存じます。

昨年の暮、幼児開発協会の発表会で、7才の男の子が、ピルレティのAモールを見事に演奏致しました。現在ではこのことは少しも珍しいことではありません。然しこのお子さんは障害児であり、4才で初めて、一言、二言やっとな喋れる状態でした。それからバイオリンのレッスンを受けるようになり、7才6ヶ月でAモールを立派に演奏出来る迄に成長致しました。私はその演奏を聴いて感動すると共に、或はここに脳障害児治療のための一つの鍵があるのではないかと感じました。

すべての子供の幸せのためには更に多くの努力と研究を要するものとつくづく感じて居ります。

- 開会の辞——大会委員長 本多正明
- 挨拶——会長 鈴木鎮一
- 卒業証書授与——会長 鈴木鎮一
- 祝辞——理事長 井深 大
- 卒業演奏 1. プーレ——バッハ
- 2. ガボット——ゴセツク



鈴木会長から卒業証書を授与されたバイオリン・ピアノ・セロ・フルート科の卒業生代表。

〈休憩〉

第 1 部

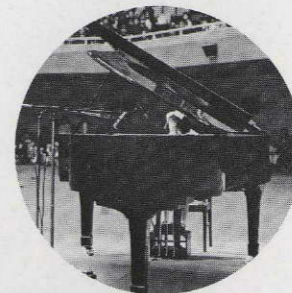
- バイオリン合奏
- 1. ソナタ ト短調 第1・2楽章——エフレス
- 2. 協奏曲 イ短調 全楽章——バッハ



バッハの協奏曲イ短調の全楽章を全国大会で始めて演奏 281名の生徒が出場。

第 2 部

- A—ピアノ独奏
- a. トルコマーチ——モーツァルト



- B—フルート合奏
- a. 荒城の月——瀧葉太郎
- b. アレグレット〈ベニスの謝肉祭〉から——ジュナン
- c. 精霊の踊り——ブルック
- d. アマリリス——ギス



- C—箏合奏
- a. [六段の調べ——八橋検校] この2曲を同時に演奏
- [松籟譜——中島雅楽之都]

- D—セロ合奏
- a. キラキラ星変奏曲——鈴木鎮一
- b. かすみか雲か——ドイツ民謡
- c. アレグロ——鈴木鎮一
- d. ロング・ロング・アゴ——ベリー
- e. メヌエット〈1巻〉——バッハ
- f. ユータス・マカベウスよりの合唱——ヘンデル
- g. モーメント・ミュージカル——シューベルト
- h. 白鳥——サン・サーンス

- E—箏とバイオリンの合奏
- a. 春の海——宮城道雄
- F—みんなで歌おう〈弦楽伴奏〉

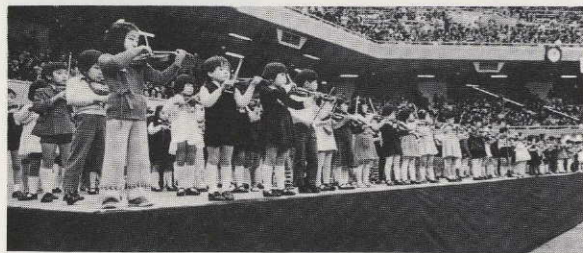
- a. おぼろ月夜——岡野貞一
- b. 花のまち——団 伊玖磨



●  
バイオリン合奏  
●



ビバルディの協奏曲イ短調第1楽章の演奏 この時出場生徒数は1000名をこえました



小さい生徒はステージの上で演奏

- 
- 3. アレグロ——フィオッコ
- 4. 協奏曲 ト短調 第1楽章——ビバルディ
- 5. 二つのバイオリンのための協奏曲 第1楽章——パツハ
- 6. 協奏曲 イ短調 第3楽章——ビバルディ
- 7. ホームコンサートより
  - a. Sleep, Darling Son ドイツ民謡(1巻)——ウエーバー
  - b. Down in the Lowlands(1巻)——ドイツ民謡
  - c. 二つのポロネーズ(2巻)——モーツァルト
- 8. ガボット——ベッカー
- 9. メヌエット——ボッケリーニ
- 0. 二人のてき弾兵——シューマン
- 1. 鈴木先生と一緒に——鈴木先生の指名される1巻の曲を  
次々にひいていきます。



鈴木先生と一緒に——

PROGRAM

25th Graduation Ceremony P.M. 1:00

Opening Greetings——Chairman of Annual Concert M. Honda  
 Greetings——President S. Suzuki  
 Presentation of Diplomas——President S. Suzuki  
 Words of Congratulations——Chairman of E. D. A. M. Ibuka  
 Graduation Concert 1. Bourrée——Bach  
 2. Gavotte——Gossec  
 〈Intermission〉

23rd All Japan Concert

- 1 VIOLIN——1. Sonata G min. 1st and 2nd mvt.——Eccles  
 2. Concert A min. 1st 2nd and 3rd mvt.——Bach
- 2 A——PIANO SOLO——a. Turkischer Marsch——Mozart  
 B——FLUTE——a. The Moon Over the Ruined Castle——R. Taki  
 b. Allegretto from "Carnival of Venice"——Genin  
 c. Orphee et Eurydice——Gluck  
 d. Amaryllis——Ghys
- C——KOTO——a. [Rokudan——K. Yatsushashi  
 Shourai fu——U. Nakazima
- D——CELLO——a. Twinkle, Twinkle, Little Star Variations——S. Suzuki  
 b. May Song——Folk Song  
 c. Allegro——S. Suzuki  
 d. Long, Long, Ago——Bayly  
 e. Menuetto(Vol. 1)——Bach  
 f. Judas Maccabaeus——Händel  
 g. Moment Musical——Schubert  
 h. The Swan——Saint-Saëns
- E——KOTO and VIOLIN——a. Haru no Umi——M. Miyagi
- F——A Concert by Strings and Chorus  
 a. Oboro-Zukiyo——T. Okano  
 b. Hana no Machi——I. Dan
- 3 VIOLIN——3. Allegro——Fiocco  
 4. Concert G min. 1st mvt.——Vivaldi  
 5. Concert D min. for Two Violins 1st mvt.——Bach  
 6. Concert A min 3rd mvt.——Vivaldi  
 7. From 〈Suzuki Home Concert (Vol. 1 and Vol. 2)〉  
 a. Sleep, Darling Son Folk Song (Vol. 1)——Weber  
 b. Drunten in Unterland (Vol. 1)——Folk Song  
 c. Zwei Polonaisen (Vol. 2)——Mozart
- 8. Gavotte——Becker  
 9. Minuet——Boccherini  
 10. The Tow Grenadiers——Schumann  
 11. With Mr. Suzuki



## 子供達の生命の躍動する全国大会

● 大会実行委員長 松井宏中



全国大会のそもそもの始まりは、昭和27年の秋、神田の共立講堂で行なわれた第一回の卒業式でした。その時196人で弾いたダブルコンチエルトは、私達教師にとって全く初めての経験であり、その心配も大きかっただけに、その時の子供達の演奏から受けた感激は、いまだに忘れられぬ思いがあります。

その後20年余、回を重ねるにつれて子供達は何とか弾いてくれるであろう、上手に弾くのは当たり前だという、なにか安易な考えが私達教師に定着してしまったように思え、私自身これではいけないとふり返って、昔のその時の意気ごみを思い出すのです。私共

がもっと高い世界を目指して準備し、努力して大会に臨むならば、子供達の力はもっともっとその可能性を拡げて、期待に応えてくれることでしょう。

この大会も二十何年の歳月をへて、会場もマンモス武道館に移りなにもかも大きく、そして華やかな祭典となってきました。外国からの多勢のお客さんをも迎えて、その昔を考えれば、鈴木先生の言われることがこのように広く認識され、会の躍進につながった今日の成果には、ただただうれしく又夢のように思えます。

しかし大切なことは、全国大会は当初の精神を失ってはいけない

と思います。お客さんのための大会である前に先づ、吾々教師や親達のこの一年になしたことの成果を心の底から見届けたいのだという願いを持って、この全国大会を推し進めてゆく時、その希いを託された子供達の生命の躍動は素晴らしい迫力をもって私達をうつことでしょう。又その時に始めて才能教育の祭典ともなり、外部に向ってのデモンストレーションとしての意義をも発揮されることになるのではないのでしょうか。

## レコードをきく

鈴木先生は、音楽的センスも音楽の拍子も、レコードをきけば育つ。これは家庭における親の役目です。わが子を、音楽センス豊かな人間に育てることは、尊い仕事です。と常々明言されておられます。

●スズキ・メソッドで音楽を習う場合、レコードやテープをきくことは、自明で普遍的なことになっていますが、それにもかかわらず、鈴木先生はくりかえし声を大にして、レコードをきくことの必要と重要さを説いておられます。この一見簡単なことが、実はまだ本当に徹底していない。きくことはきくが、くりかえしが足りない、身につくまできいていない、と言っておられるのではないのでしょうか。レコードをきくことの再認識を行ってみたいと思います。鈴木先生のお言葉をよく味わってみましょう。

### ●音楽的センスは親が育てる

毎日、「さあ、おけいこをしなさい。」と、ただおけいこすることだけを、音楽教育と間違えている人が多いようです。

レッスンの時に先生が、曲の部分をどれ程音楽的に弾いて聞かせても、週に一回のことであり、それだけで子供に音楽的センスが育つわけではありません。

●家庭で親がレコードを毎日盛んにきかせることによって、始めて子供は音楽的センスを身につけていくのです。

●そのために、同じ曲をくりかえしレコードで聞かせることが大切です。一回だけ聞かせても駄目です。

レコードを毎日きかせることは、誰にも出来るやさしいことです。しかしこの簡単なことの積み重ねが、やがてわが子を美しい音楽的な人間に育てる素晴らしい教育をしたことになるのです。「どの子も育つ、親次第」です。

●勿論レコードをよくきくだけでは、バイオリンやピアノが弾けるようにはなりませんが……

●くりかえしレコードをきく回数が多い程、立派に演奏された一曲全体のそのすべてを身につけ、子供のなかの内なる力が次第に見事に育っていくのです。

●先生からレッスンをうける、これが子供の最良の状態なのです。レッスンは生き生きとし、子供の意欲はたかまります。

### ●音楽的拍子の育て方

●音符は誤って鳴らせば、誰にでもすぐわかります。しかし拍子の乱れは、ひく当人には中々わかりにくいものです。

●そのため、音符を正しくひくことに注意が集中し、音楽として重要な拍子が乱れていても、気がつく生徒がすくないのです。

●拍子のうまさ、正しさへ心を動かすことを、レッスンの最初から指導すべきです。

初歩の時から、家庭で毎日よくレコードをきかせて育てると、次第に音楽的拍子を身につけて育っていきます。子供の生命の大きな力がこれをキャッチしていくのです。

●拍子の指導はむづかしいのです。

一週一回のレッスンの時によく教えたつもりでも、後の6日間、家庭で乱れたおけいこをすれば、そのレッスンは効果なしということ。その上その生徒の能力としては、乱れた拍子が身につけて育っていきます。

レコードをよくきかせるということは、一週一回だけのレッスンを大いに助け、毎日何回となく先生に代わってレッスンをしてくれることとなります。

したがって、レコードを毎日よくきく生徒は、レコードを全くきかず乱れた拍子で毎日おけいこしている生徒の50倍も100倍も、それ以上も、拍子ばかりでなくもつと色々な音楽的なすぐれた能力を身につけて育っていくわけです。

●レコードをよくきかせてありますので、次のレッスンの時先生が、より正しい、より立派な拍子のうまさへと指導していくことが可能なのです。

●生徒がすんなりと高く育つのはこの過程においてです。

### ●レッスンで骨を折って育てる拙さ。

母国語の教育にこんな無駄な骨折りはありません。最も巧みな優れた教育は、余計な苦勞がなく、よく育つ条件をうまく与えてゆくことではないでしょうか。

大骨を折って、世話を焼きすぎて、生徒が少しも立派にならない下手な指導をやめましょう。育てるうまさを研究いたしましょう。

### ●拍子は音楽の心です。

拍子を心(の中)に育てるべきです。

勿論、初心者には正しく三拍子、四拍子の時間を守らせる指導は必要でしょう。しかし、そんなことは、手をたたいてでも教えられ

ます。

●私は、音楽的拍子のうまさというものを、名演奏のレコードと楽譜とを対照しながら、名人達のすばらしい表現を勉強しました。拍子の立派さ、うまさは、実に限りなくアリケートな世界です。ことに、フレーズの問題、音のないところの間(マ)のうまさ、そのうまさの中にこそ、音楽の拍子、音楽の心が、又作曲者の生命の声がきこえるのです。

### 音符教育から音楽教育へ(鈴木鎮一著 藤田 第3集より)

●音符は、素晴らしい発明でした。

それは文字の発明と同じほどの重要な意義をもち、人類の作った文化として、まさに誇るにたるものの一つと言えます。

●しかし、音符は、けっして完全なものとはいえません。音楽芸術のもつあの素晴らしいアメリカシーや自由の息吹き、その芸術的感動を記録するには、音譜は余りにも、貧弱で簡素な記録であり、音楽そのものの忠実な記録ではないのです。

●人類の発明したレコードやテープは、“音楽そのまま”を録音し、再現することを可能にしました。

これに比較して、“音符”は、音楽の記録という面においては、実に不完全と言わなければなりません。

●今日の私どもは、音符によって音楽を記録する時代の歴史から、一步前進して音楽そのものを記録する時代の中に生活しているのです。

●したがって私たちは、音楽教育の面において、(全く新しい時代)に属していることを、はっきり認識しなければなりません。

(レコードのもつ意味の新鮮さを、おわかり頂けたことと思います。)

### ●音符教育の現状

●音符も文化の歴史とともに変遷改良され、今日の音符は、数学的というか四則の計算を根底として完成されてきましたが、いくら進歩しても、音符が音楽でないことに変わりありません。

●それにもかかわらず、音符を音にする訓練に始まり音符から音楽をつくり出す能力の養成が今日の音楽教育そのものになっています。

### ●音符のもつからくり

●たしかに、「音符」がなければ、「音楽」もなくなりますので、音符と音楽の違いがかき消されて、「音符は音楽なり」という錯覚におちいるのでしょう。

●その結果、音符教育ができれば音楽教師になれるので、音符があつて音楽のない人々が、世界中のいたるところで音楽の教育をしているというわけです。

### ●ピアノ研究グループ試験用テープ

●スズキ・メソッドの子供たちは、こんなに音楽的に立派に育っています。どうぞあなたも、この研究グループに御参加ください。というおすすめのカセットテープです。

●内容は3才から15才までの15名の生徒が、教科書のピアノ指導曲集からバッハやモーツァルトの曲を中心に演奏したものです。全員の演奏が、それぞれに実に見事です。この中でただ一人を紹介することは気がひけますが、レコードをきくというテーマに余りにもびつたりですので、すこし記してみます。

●「私は丸山カオリです。5才です。バッハの二つのメヌエットとジグをひきます。」と可愛らしい声がして、無伴奏バリエーション第一番の中の最後の二曲が、朗々と始まります。3才から習つて5才の年齢でこんな演奏がどうして可能なか信じられない程です。この堂々としてゆるぎない演奏の中から、ひき進むにつれてバッハの精神がありありと立ちのぼるのを、私は幾度きいてもその度にはつきり感じます。

●カオリさんはその当時教材としてこの曲についていたリリパティのレコードを、一体どれ位の回数をきいたことでしょうか。カオリさんの先生の断固としたスズキ・メソッドの御指導と、これにしたがって徹底されたお母さんの愛情が、リリパティのあの高い高い芸術の境地にとけこんで、常識では信じられないこの演奏を生んだものと思われま。

(このテープは、ピアノ以外の方にも是非きいて頂きたいものです。1本1000円で本部にあります。)

## 才能教育研究会1年の歩み

才能教育幼児学園第27回卒業生30人の知能テストの平均  
〈幼児用田中B式知能検査第一形式・51年3月13日調査〉

生活年齢〈6;6〉、知能点〈106〉、知能偏差値〈68〉、知能指数  
〈146〉、精神年齢〈9;5〉、知能段階〈優〉、評価段階〈秀〉、保育年  
数〈3年 9人・2年 20人・1年 1人〉



### 昭和51年度ピアノ科卒業式

- 3月26日 大阪府青少年会館〈第5回〉
  - 3月29日 東京・サンプラザホール〈第6回〉
  - 3月31日 松本・才能教育会館〈第6回〉
- 卒業生——2192名
- 前期初等科〈バッハのメヌエット2番〉——1353名  
初等科〈バッハの二つのメヌエットとジーグ〉——543名  
中等科〈モーツァルトのソナタK.331全楽章〉——183名  
高等科〈バッハのイタリア協奏曲 全楽章〉——90名  
研究科〈モーツァルトの協奏曲「戴冠式」全楽章〉——23名
- 卒業の地域区分
- 東日本全域——1260名  
西日本全域——778名  
甲信地区——154名

### 青木謙幸ピアノ科担当理事の講評

演奏は年々向上していますが、全体的にレコードのきかせ方が不足です。これは家庭における母親の責任ですが、先生もこの重要性を再認識してください。レコードを十分にきかせて毎日の練習量をふやしくいくことが必要です。鈴木先生の示される〈テクニックの正確、より音楽的に、演奏の鮮やか〉という高度な目標に近づく、最上つ方法なのです。

● 実際、子供たちがバッハやモーツァルトの名曲を立派に弾きこなしつつ成長していく姿ほど、親と教師にとって大きな喜びはないと思われず。



### 鈴木鎮一先生喜寿祝賀演奏会

●4月14日 東京・郵便貯金ホール

「私は今35才です。77才の老人のお祝いは少々迷惑ですが、皆さまのお祝い下さるお気持ちには心から感謝します。」100才が停年の鈴木先生には当然で率直なお気持ちであったと思います。祝賀演奏会は絢爛豪華でした。江藤俊哉、豊田耕児、小林武史、小林健次、浦川直也の世界的な名声を持つ各氏が、それぞれにストラジヤやガレネリなどの銘器〈時価総計2億円と新聞でさわがれました〉を手にしてステージに勢揃いした瞬間、予想をこえる圧倒的な感動がホール一杯にみなぎりました。

徳川名誉会長、井深理事長の祝辞のあと鈴木先生の挨拶の言葉と独奏がありました。鈴木先生はどんな時でも、淡々というか生き生きというか、普段と変わりませんが、この夜もそうでしたが「名古屋の子守唄」を弾かれた音色の明快な迫力には一同驚嘆いたし、喜寿という老境には程遠いことを思い知らされました。

今日、スズキ・メソッドによって習う子供達は、日本でバイオリンが1万名をこえ、ピアノが6000名に達し、アメリカとカナダではバイオリンの子供達が実に10万名にも及んでいるときいています。指導者数はこの3ヶ国で2000名をこえると思われませんが、鈴木先生はこの頂点に立ち、殆どお一人の努力で皆をくいくひつぱってあられるのが現状です。

この鈴木先生の周囲にいて努力はしているつもりでも、先生とは反対に毎年うかつに年をとってありますので、これによいものかどうか、会場のどよめきの中で考えさせられました。

● 名古屋支部では9月22日の夜、ニューキャッスルホテルの大広間に500名が出席、こちらは「喜寿」ぬきて〈鈴木鎮一先生をお祝いする会〉を開催、鈴木先生御夫妻は一段とお喜びになられたとのことでした。

### 豊田耕児先生バイオリン演奏会

- 4月17日 京都シルクホール
- 4月23日 松本・才能教育会館

### 鈴木会長講演会と埼玉地区ピアノ科バイオリン科発表会

- 4月25日 浦和市埼玉会館ホール

### ソ聯の著名なチェリスト、ダニエル・シャルダンさん歓迎演奏会

●4月20日、名古屋市布池文化センターで名古屋支部チェロ教室〈中島顕先生指導〉の生徒30名が演奏。

### 第二回チェロ全国大会

●5月5日、東京中野のサンプラザ大ホールで開催、参加生徒180名。



### ピアノ科講師認定式〈及びピアノ研究会〉

●5月29日→31日 三河ハイツ〈愛知県蒲郡市〉  
第4回目の認定式では21名の新講師が誕生いたしました。本会にとって毎年の待ち遠しい大きな喜びです。

〔東京地区〕河野京子/中野典子/田中京子  
〔関東地区〕平賀千恵子/赤池美枝子/池田米子/池上幸子/斉藤ナナエ/塩沢雪野。

〔甲信越地区〕高橋祥子  
〔北陸地区〕今泉喜代枝/星洋子  
〔関西地区〕福永和司/吉村邦子/森みかね子/高津鏡子/種谷渥子/山岸有理/岡田多美子/前川和子/広岡文子の各先生です。

これでピアノ科講師は、第一回51名、第二回44名、第三回25名、第四回21名ですから、計141名になりました。

### ピアノ科公開レッスンとリサイタル

公開レッスンは高等科、研究科卒業の生徒が対象で、リサイタルはモーツァルトのソナタK.331など指導曲集を中心にしたプログラムが演奏されます。

- 深沢亮子先生  
リサイタル——松本 1月17日 才能教育会館ホール  
公開レッスン——東京 2月15日 東邦生命ホール、大阪 2月28日 帝人ホール

- 小林道夫先生  
リサイタル——東京 9月19日 杉並公会堂、大阪 10月23日 厚生年金会館中ホール

尚、5月の講師認定式における研究会では、チェンバロでゴールドベルク変奏曲を演奏され、出席の先生方に大きな感銘を与えました。

● 小林先生も深沢先生も、何かほのほのとした誠意を身につけておられ、それが演奏の時の拍子や音色に何か身近かに感じられます。

### 指導者研究大会

●5月16日→21日 天城東急ホテル〈静岡県〉  
標高1000mの天城高原にそびえる唯一のこのホテルは、富士の眺望が素晴らしいすでに3回目の会場です。会長以下バイオリン・ピアノ・セロ・フルート各科の指導者・助教師・助手161名、本会音楽学校生徒43名、ピオラの名人・プリムローズ先生御夫妻他ゲスト、本部職員など15名、計219名が6日間にあわって出席しました。日常性をはなれ、明るく澄んだ静かな環境で、ススキファミリーと呼ばれるにふさわしいこれらの人々が全員何の屈託もなくのびのびとした気持ちで、鈴木先生の集中講義に没頭いたしました。今年の研究テーマは次の通りでした。

- 1——能力は家庭で育つ
- 2——指導者のレッスンと教室の在り方
- 3——意欲づくりと能力づくり
- 4——TONALIZATION



### プリムローズ先生のリサイタル

今世紀最高のピオラ奏者プリムローズ先生をお迎えして、5月と12月に次の通り演奏会が開催されました。真の名手による芸術を、しかもふだんおけいこしているガボットやメヌエットなどの小品も数多く交えて、大曲とともにきけたことは、実に大きな喜びでした。

- 5月26日 松本・才能教育会館
- 5月29日 関西・茨木市民会館
- 5月31日 東京・日経ホール
- 6月2日 名古屋・中電ホール
- 12月7日 東京・中央会館
- 12月10日 松本・才能教育会館
- 12月11日 諏訪・北沢会館
- 12月13日 甲府・山梨県民会館
- 12月15日 長野・勤労者福祉センター
- 12月16日 名古屋・東別院青少年会館
- 12月17日 京都・シルクホール

### 個人レッスンと講習会

演奏会の開催地では、本会生徒たちの個人レッスンや、各地区指導者のための講習会が開かれ、弦楽器奏法の極意を伝えるために大変な努力をそそいでいただきました。

### ジュニア・フィルハーモニック・オーケストラと協演

●7月21日、渋谷公会堂。塚原哲夫先生指揮によってバッハのイ短調協奏曲全楽章を46名の生徒が見事に演奏しました。



### 第27回夏期学校・松本市

●7月25日(日)→29日(木)前班  
●7月29日(木)→8月2日(月)後班  
参加生徒1380人

〔会場〕才能教育会館・松本市民会館・松南高校

午前9時30分～10時40分、松南高校を中心に28の教室に分れ、全指導者分担による曲目別のレッスン。札幌から熊本まで各地の支部教室の先生と生徒が様々な出会いをするわけです。

11時～12時、市民会館で各種の小コンサート。午後1時～2時30分、同じ市民会館で夏期学校名物の鈴木会長グループレッスン。これを目指して日本各地の教室は勿論、アメリカ始め海外各国から多数の生徒や教師が参加します。2時30分～4時30分午後のコンサート。これと前・後班各一回の夜のコンサートでは、各地支部教室の優秀な生徒によるバイオリン・ピアノ・セロ・フルートの独奏や合奏が、見事に又楽しさに溢れて次々と展開されます。5才6才7才という小さい生徒たちの堂々とした音楽的な演奏には、スズキメソードのしんがいがほとぼるかのようでした。

台湾から43名の参加。台湾で唯一人10年近くも才能教育運動に奔走しておられる呂炳川先生が、生徒と母親と先生で43名もの方々を引率して参加されました。出国手続きがきびしくその苦労は大変なものでした。5才から12才位までの生徒さんもお母さま方も日本人とすこしも変わりませんが、残念なことに共通語は英語です。私たちに英会話は必須のことと痛感しました。



### 鈴木先生アメリカの夏期学校へ

●サンフランシスコ→ウィスコンシン→ロチェスター→シアトル(8月4日→9月2日)

鈴木先生は松本での夏期学校(7月25日→8月2日)を終了され4日には羽田を発ってアメリカの夏期学校に向われ、前後40日間は完全に無休でした。羽田にお帰りの時この事を話されましたが、いつもの笑顔でしたので御苦労の实感がまるで伝わりませんでした。その後数ヶ月、通信や会誌で先生の記事を読み、始めて事の重要さに驚くというかつな次第でした。

### 美しく晴れた涼しいサンフランシスコ

会場・サンフランシスコ大学

午前9時——40数名の先生達が各クラスにわかれて、生徒の合同レッスン。

11時——同じホールに180数名の先生が集合して、鈴木会長の研究発表。

午後2時——大ホールで毎日鈴木会長のグループレッスンをを行い、先生達が見学。会長の新しいアイデアを次々と生徒に演奏させて、これを説明する。

4時——毎日公開の個人レッスン。サン・サーンス協奏曲やバッハのソロソナタを弾く生徒でも、トナリゼーションで姿勢や音の訓練をしてもう一度同じ曲をひかせると、音量も倍位に変わり、トナリゼーションの研究と指導の重要性を強調、よく理解してもらおう。

●

### 15日間に3000人参加のヴィスコンシン

会場・ヴィスコンシン大学

生徒の能力に応じて前・中・後期の三段階にわかれ、15日間に3000名が集まる盛大な夏期学校で、開校式も式の演奏も大学の広場で行われるという大変な人数であり、鈴木会長への歓迎のものすごさを物語っています。会場の大混雑にホテルとの往復は始め赤ランプのバトカーがうやうやしく用意されていましたが、「私はピーナッツをもらっていませんので」と冗談をいわれておことわりになったそうです。

●

### セロの生徒が100人もいたロチェスター

会場・ロチェスター大学

ウェンズデイ・イブニング紙——〈ロチェスター大学ハベル講堂の正面にバイオリンを手にした幼い女の子と、一人の小柄な男の人——が聴衆を前にして立ち、彼はバイオリンに弓をのせ、はじくようにして弾きはじめた。タカタカタッター、「いい音ですネ」と自分で言う。「さあ、あなたも一つ一つの弦を弓ではじくようにして、ひいてごらん下さい。そしてひき終わったら『いい音ですネ』と言ってごらん下さい。』——略——スズキは、その名にちなんでつけられた第10回全米スズキ・メソード研究大会、ならびに音楽祭の指導にあたるため、今週当地にこれ、目下、ロチェスターに滞在中である。——略——

●

### シアトルのスズキ・スクール訪問

これは夏期学校ではありませんが、驚いたことにシアトル空港では市長さん始め数百人の人々の出迎えと、幼ない百人ほどの子供達のキラキラ星のバイオリン演奏があり、夕方のテレビで放映されるという大変な歓迎ぶりでした。

シアトルの生徒たちは、平田先生御夫妻、中村先生御夫妻、それにアメリカの先生達のトナリゼーションのよい指導で、日本

の生徒と同じ美しい音で育っていました。森の中に建っている鈴木スクールの建物は大きく立派ですが、もう生徒がいっぱいなので、新しい大きな20数教室ある建物を獲得する運動が計画されているとのこと。 (上掲写真右の説明)

思わずほほえみたくなる写真です。「アメリカには鈴木先生が必要で」 スズキ・メソードに対するアメリカの方々の明快率直な気持ちが、何と見事に表わされていることでしょうか。



### 名誉会長徳川義親先生の御逝去

昭和51年9月6日、東京目白の徳川邸にて90才の御生涯を終られました。昭和25年本会創立以来の名誉会長であり、昭和30年の第一回全国大会では先生の御尽力と御招待によって、皇太子殿下始め当時の全宮様が御出席になり、したがって在京の各国外交団も殆ど揃って出席されるという、一寸信じられない程の事が実現いたしました。

鈴木会長の、恩師を失った悲しみ——の始めには「徳川義親先生の突然の訃をテレビで知り、大きな悲しみのショックをうけました。徳川先生からは、私の人生を護り導いてくださった、深い御恩をいただいたのです。二十才から今日までの五十数年の私の歩いてきた道は、徳川先生の御導きなしでは生れなかつたでしょう」と記されております。

### 徳川義親先生の御略歴

明治19年(1886)、福井藩主松平春嶽の末子としてお生れになり、明治41年(学習院高等科時代)尾張徳川家の養子となられ、徳川義親と改名されました。同年5月、かつて御三家の筆頭であった侯爵徳川家十九代目当主に相続されました。東京帝国大学国史科生物学科を御卒業。「木曾林政史」の研究業績と、大正十年のマレーでのトラ狩りは、つとに有名です。学殖と行動力のある異色の「殿様」として、日本の現代史に多彩な足跡を残されました。

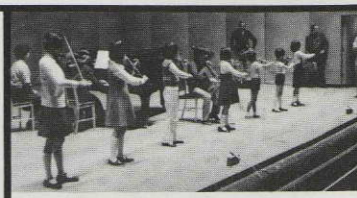
鈴木会長とともに、徳川先生に深い感謝を捧げると共に、心から先生の御冥福をお祈りしたいとおもいます。

### 関東地区秋の会長講演会

- 9月19日 杉並公会堂
- 9月20日 品川文化会館
- 9月21日 藤沢市民会館

### 才能教育名古屋大会

●9月23日、名古屋市民会館大ホールで700人の子供によるバイオリン・チェロ・フルート・ピアノの大合奏が行われました。



### 第12回訪米演奏旅行

●10月4日→11月9日(37日間)  
〔メンバー〕団長——本多正明理事、バイオリン指導者——広瀬八朗・安田広務・川上きよ子・青木千枝子 ピアノ伴奏——広瀬悠子の諸先生。生徒——バイオリン——市川雅之・小原一博・竹沢恭子・碓井智子・笠井知子・小川英知香・北沢久美子 ピアノ——細田洋子 セロ——野村朋享 フルード——宮前文明以上16名 生徒の年齢は市川君7才から野村君16才までです。(訪問都市)トベカ(キャンサス) サマーセット(ケンタッキー) メンフィス(テネシー) ホートウエン(インディアナ) フィラデルフィア(ペンシルバニア) モントリオール(カナダ) ロチェスター(ニューヨーク) レークプラント(ニューヨーク) カントン(オハイオ) ニューオリンズ(ルイジアナ) モンロー(ルイジアナ) ラーボック(テキサス) ヒューストン(テキサス) エルカミノ(カリフォルニア) ホノルル(ハワイ) 以上の15都市です。

スズキ・チルドレンの海外演奏は連続12年を数え、訪問先もアメリカ、カナダを中心に、英国、西ドイツ、スイス、スウェーデン、の諸国に及び、この間200に近い各国の都市で、日本の才能教育を代表する子供達の演奏、付添指導者のワークショップ、本多理事の講演などにより、とくにアメリカとカナダの音楽教育には計り知れない大きな貢献をいたしました。今日、スズキ・メソードで教えている両国の先生は数千名、その生徒は10万人に達するといわれています。

特筆すべきことは、アメリカの才能教育が非常に進歩し、優秀なリーダーによるヨーロッパ諸国への普及活動がすでに開始されていることです。

### 鈴木会長第6回モービル音楽賞受賞

●10月26日、港区麻布台の東京アメリカンクラブで、安島文化庁長官の祝辞、属啓成氏の選考経過発表の後、モービル石油社長F・アダムジュニア氏から賞品が贈られました。

### 第15回才能教育甲信大会

●11月7日 長野市民会館  
昨年の北信大会から甲信大会に成長、伝田先生を実行委員長に長野県北部と甲府の各支部長教室役員会員が一丸となり、「もう二度とやれない」と声のでる程全力を投入、鈴木会長の講演を中心にバイオリン・ピアノ・セロ・フルートの見事な演奏が行われ、会場は超満員でした。とくにバッハのドッベルをきかれた青木謙幸理事は「才能教育演奏の傑作」と称賛されました。